

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472200308		
法人名	医療法人 福島会		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	三重県三重郡朝日町大字小向2064番地1		
自己評価作成日	平成22年8月28日	評価結果市町村提出日	平成22年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472200308&SCD=320□□
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 22 年 9 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

庭や畑で季節の作物を作っており、利用者にとつての憩いの場となっている。地域との交流を深めるため、機会があれば町の催し物に参加させてもらっている。また、地域ボランティアや民生委員、隣接の有料老人ホームと協力して、当ホームでの行事を作りあげている。また、経営母体が歯科診療所であり、口腔衛生に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体が医療法人・歯科医療機関であるため、入居者の楽しみの一つである「食べること」、「話すこと」にも重点が置かれ口腔衛生に力が入れている。この事業所の北側に、かねてから計画中の幼保一体の町立幼稚園が開園され、園児と入居者とのお互いの存在が確認し合えるという理想の環境が出来ている平屋建2ユニットの事業所である。広い敷地内には、有料老人ホームが併設されお互いの協力関係が構築されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり楽しく家族のように豊かな生活を送りたい」「全ての人にほほえみを」という理念を掲げている。利用者と温かい関係を築き、孤立せず、生活できるよう支援している。	「全ての人にほほえみを」の法人全体の理念と事業所独自の「ゆっくり・楽しく・家族のように豊かな生活を送りたい」の理念がある。地域密着型としての意義を踏まえた理念についても職員と、よく話し合い実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の折に挨拶したり、近所の店に買い物に行ったり、町の行事にはできるだけ参加するようにしている。また、ホームの秋祭りを楽しみにされている近所の方がみえ、その機会に交流するようにしている。	町の行事や敬老会ともに参加をしている。また事業所主催の毎年恒例の「秋祭り」には多くの地域の方たちで賑わい交流の場になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの秋祭りへ参加していただくことが、利用者の方の生活の様子を見て認知症の方への理解を深めていただく機会になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の実際の様子だけでなく、テーマを決め、意見や情報交換をするようにしている。	地域包括支援センター、利用者とその家族、地元代表者等の参加で毎月1回開催されている。主に地域密着型施設としての取り組み方や地域との交流について等が話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居希望者の紹介や、地域の行事、研修会や講演会の案内をもらい、できるだけ参加するようにしている。	町の担当者は協力的で行事のお知らせを届けてくれたり、在宅で虐待の恐れがあるケース等があると双方で協議し解決に向けた話し合いが行なわれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのようなことが身体拘束であるのか正しく理解できるよう話し合いをもち、玄関の施錠についても鍵をしない時間を作るなど検討している。	施設長および職員は、身体拘束をしないケアを正しく理解をしているが、帰宅願望の方があり玄関の鍵は外出時以外は、ほぼ日常的に施錠されている。	玄関のチャイムが聞こえにくい。職員の見守りが手薄になる時間帯があっても「目を離さない」を基本として一人ひとりの外出くせを把握し、施錠を当たり前とせず、曜日、時間、ユニット単位での工夫により施錠をしない取り組みが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのようなことが虐待につながるかについて話し合い、そのようなことがないように注意を払っている。また、高齢者虐待に関する講演会に参加し、話し合いをもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度や事業について社会福祉協議会の職員等から学ぶ機会がある。管理者は、制度について他職員にカンファレンスを通して説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容を十分に説明し、納得していただけるように時間をとっている。また、不安や疑問、要望があればいつでも連絡していただくよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や要望は、月一回介護相談員の訪問があるため、利用者の思いを聞いてもらい職員に伝えてもらえるようにしている。また、家族には面会時や電話で意見を聞くようにしているほか、意見箱の設置やアンケート実施を通して意見や提案を聞き、反映させるようにしている。	家族アンケートで要望や意見を聞き、改善された事項は家族に報告をしている。アンケートの結果は運営推進委員会でも報告をしており適切なアドバイスを受けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで、意見や提案を聞いている。気付いた点があれば、いつでも意見を聞き改善に向け反映させるようにしている。	夜勤一人体制で緊急時の場合の対応について職員から意見があり、隣接する有料老人ホーム関係者等と「お互いの連携と協力について」等が話し合われ夜間対応に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者を通して職場の現状を把握し、改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりケアの実際と力量を把握し、法人内での研修を受ける機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人の事業所と交流する機会はないが、当法人内での定期的な勉強会や行事を通しての交流があり、サービス向上のための話し合いの機会としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居における不安や混乱がないよう、ゆっくり時間をかけ、本人の要望を傾聴し、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の実情や要望等を十分に聞くことで、問題点の洗い出しや不安解消につながる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入段階での話し合いでニーズを把握する一方、環境の変化による精神的不安や負担を軽減する努力をし、本人と家族が必要としている支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の性質や好みを尊重し、一緒に洗濯物を干したり、食事作りの手伝いをしてもらったり、また、買い物の好きな方は、一緒に出かけることで信頼関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に最近の様子などを伝えている。また、心身の変化が見られるときは家族に連絡し、相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の思いを理解し、関係の継続ができるように努め、友人の訪問や電話での近況報告など、気兼ねなく行えるようにしている。	電話をかけることができる人は、直接馴染みの方へ電話をかけて訪問をしてもらい、その関係が途切れないように見守りが行なわれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で好みや性質を理解され、それぞれ友好関係ができていて、一緒に買い物に出かけたりできる機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者や家族も希望があれば関わりをもち、行事へ招待するなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や表情から、本人の思いや考えをくみ取るようにしており、被害妄想の強い方には希望を聞き納得していただけるような配慮をしている。	視力障害や難聴の方には細やかな会話と説明が必要で、表情や相槌の打ち方でその人の思いを汲み取っている。自己表現の難しい人や出来ない人には各人に合った対応をするなどの心配りが行なわれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から入居されるまでの暮らしぶりを聞き取り、できる限りその生活に近い生活リズムを作ることができるよう努めている。毎日買い物に出かけていた人には、外出の機会を作るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に記入することにより、日々の様子を全職員が確認できるようにしている。また、利用者の変化に気づいた職員は、申し送りノートに記録し、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員で利用者の状態または、利用者本人や家族との会話の中から思いを聞いて、現状に即した介護計画を作るようにしている。	ケアカンファレンス会議で家族からの聞き取りと、直接介護にあたる職員の意見も聞きながら介護計画を立て見直しをしている。それ以外にも必要に応じて随時行なわれた見直しの計画書は家族にも了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や日々の様子のちょっとした変化や気づきを、個人記録に記入し、情報を共有して実践に生かしている。また、定期的に課題の見直しをして、現状に合ったケアプランを作るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、希望を聞き、必要と思われるリハビリ支援や専門医受診など取り組んでいる。また、事情があり、家族の訪問が困難の場合は、職員が同行するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「秋祭り」「餅つき大会」等の行事の折に、地域のボランティアや民生委員の方が参加し、協力して下さっている。また、こちらからも町の行事にできるだけ参加できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望を聞き、今までのかかりつけ医への受診を希望される場合は、それに合わせている。特に希望のない方については当事業所が協力病院としている病院をかかりつけ医としてもらっている。	希望により従来のかかりつけ医での受診が可能である。協力医療機関は定期的または、必要時に往診をしてもらい緊急時には適切な医療を受けられるような支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者の体調変化や気付きを看護師に伝え相談し、ケアを行い必要であれば受診できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院との情報交換は密に行っており、早期退院できるように相談している。また、入院先の病院にホームでの様子を伝えるなど協力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応や終末期のあり方、また、急変時の対応については入居時にも聞いているが、必要と思われる時、往診時に家族に立ち会ってもらい、今後の方針を共有するよう取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」で看取りに関する考え方を入居者及び家族、医師、管理者、看護師等と話し合い説明をしている。	意識が無い状態まで看取り、急変して病院へ搬送された例はある。事業所での対応が困難と認めた場合はあらかじめ話し合いが行なわれるが、この指針の方針を今一度、全職員等に説明をしていただき情報の共有をお願いしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救命講習を受講し、初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者の避難誘導や、初期消火の訓練を隣接の有料老人ホームと協力して行っている。地域との協力体制づくりは、運営推進会議で話し合いをしている段階である。	火災や地震、水害等の災害避難訓練を同一敷地内の有料老人ホームと合同で実施している。	災害時、(地理的に特に水害に遭う危険性がある。)に職員だけでの誘導の限界を再確認し地域住民等との協力体制をより築いていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライドやプライバシーを損ねない言葉かけの仕方や対応を職員同士で話し合い、一人ひとりに合わせた言葉かけや対応をしている。	笑顔で接する。ゆっくり、やさしく話しかける。丁寧に利用者の意見を聞くことを職員は意識しながら利用者の尊重とプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思い、希望が表すことができる雰囲気作りをし、好みの料理を作ったり、外食に出かけたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者のペースを尊重して生活してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回訪問美容の方が来られ、利用者は本人の好みの髪形にしてもらっている。また、季節に合った、その人らしい洋服を選んでもらっている。選ぶことが困難な方は職員が選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常は、決まったメニューの食材を配達業者に依頼しているが、お寿司やうなぎなど、好みの外食だけでなく、誕生日には、本人の希望するメニューや季節メニューを取り入れ、野菜切りや味見、盛り付け、後片付けも一緒に行っている。	畑で採れたナスを食材に取り入れ、職員も同じものを食べていて楽しく和やかな雰囲気である。職員は、視力障害(全盲)の方への声かけと、相手の表情をしっかりと見極めながら全介助をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事摂取量を記録し、食べる量や栄養バランス、水分量を一人ひとり把握している。自らのどの渴きを訴えられない方には、こまめに水分補給の声かけを行っている。体調や咀嚼の状況に応じてお粥や刻み食にして食べやすくしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に2回歯科衛生士の個別の口腔指導があり、利用者や職員への指導がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意を訴えられなくなった方に定期的にはトイレ誘導を行うことにより、トイレでの排泄を習慣づけている。	トイレでの排泄を習慣づけ、自立に向けた支援が行なわれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に牛乳・繊維質の物を使用した食事やおやつを心がけている。また、排便チェック表を作成し、排便状況の把握をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴休日は決まっているが、時間帯は一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんでいただけるよう配慮している。	基本的には週5日入浴ができる。また事業所での入浴が困難な方(2名)は、隣接の有料老人ホームの器械浴を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めず、休息したり、テレビを楽しんだり個々のペースで入眠していただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を事務所に保管し、薬の目的や副作用等を確認できるようにしている。また、薬が変わった時は、家族に連絡し、職員には連絡ノートに記入して、職員全員が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いや一人ひとりの力を活かした役割をお願いしている。また、短歌づくりや新聞を読むことが日課になっている方もある。やりがいや楽しみを感じて生活していただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭や近所への散歩は、できるだけ行っている。花見などの季節ごとの外出も行っている。その人の希望にそった外出は、家族に相談、協力いただいている。	家族の付き添いで通院するが、その前に更衣、シャワー、オムツ替え等も済ませ、気持ちよく外出できるような支援が行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの状態に応じて、少額の金銭を管理していただき、買い物や喫茶外出時に使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、利用者の希望に応じて、使用できるようにしている。手紙やハガキは希望された時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が気持ちよく過ごせるよう配慮している。庭に咲いている花を利用者が活けたり、手作りの作品を飾ったりと、くつろげる工夫をしている。	リビング、キッチン是一个のフロアーになっており、ゆったり、広々としていて天井も高く部屋全体が明るい。壁面には利用者の書や絵が飾られ季節感を採り入れて居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で読書できるスペースや、気の合った利用者同士でお茶やおしゃべりを楽しめるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使いなれた家具や家族の写真を飾ったり、仏壇をもってきてもらったり、自宅での生活に近づけるよう工夫している。	使い慣れたベットや思い出のタンス等が持ち込まれ、家族の写真や馴染みの物を傍に置いている。状態の悪化で介護用ベットを必要とする方はリースを使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレはその人の使い勝手がいい所を使ってもらい、食堂の席は歩行器や杖歩行の人が動きやすい位置にしたり、気の合う人同士、隣り合うよう工夫している。		